

第3回 横浜市金沢区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	令和4年11月14日(月) 13時～15時
開催場所	金沢区総合庁舎 5階1号会議室
出席者	<p>【委員】 赤江直美委員、浅葉弾委員、阿部きみえ委員、北原まどか委員、鈴木達洋委員、鈴木伸治委員長、三輪律江委員、横井正巳委員 (9名中8名、委員は五十音順)</p> <p>【事務局】 金沢区副区長、金沢区区政推進課長、金沢区地域振興課長、文化観光局文化振興課、株式会社山手総合計画研究所 ほか関係職員</p>
欠席者	津軽石昭彦委員
開催形態	公開(傍聴者1名、報道1名)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>第2回委員会での議論内容の確認</li> <li>基本的な方向性について</li> <li>施設機能・構成について</li> <li>金沢区区民文化センターニュース第3号(案)について</li> </ol>
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>第2回委員会の議事録</li> <li>基本的な方向性について</li> <li>ニュース3号(案)の決定</li> </ol>
議 事	<p><b>1 開会</b></p> <p>副区長 挨拶 本日は、委員の皆様方にはご多忙のところ、ご出席いただきましてありがとうございます。これまで2回の委員会におきましては、金沢区らしい区民文化センターとするべく、本当に活発なご議論をいただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。活発なご議論をいただいたことで、基本構想全体を明らかにできつつある状況に来ているのかという風に思っております。検討委員会は、本日も含め、残すところ2回となります。これから最終的な詰め段階に入りますので、引き続き、活発なご議論をお願いしたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>区政推進課長 本日の資料 (資料1・資料2・資料3・資料4)</p> <p><b>2 議事</b></p> <p>鈴木委員長 それではこれより議事に入ります。 まずは議事の1、<u>第2回委員会での議論内容の確認</u>について、事務局から資料の説明をお願いします。</p> <p>事務局 資料1について説明</p> <p>鈴木委員長 いま説明いただいた<u>第2回委員会の振り返りと議事録案</u>については、ご自身の発言を中心にご確認いただき、修正が必要でしたらご発言ください。</p> <p>一 同 (意見なし)</p>

鈴木委員長 なかなかその場で確認するのは大変かもしれませんので、特にご意見ないようでしたら、この後の資料2の修正点などとも関連しますので、また最後にもう一度確認をさせていただきます。もし修正が必要と思われる部分がありましたら、その時にご発言いただければと思います。

一 同 (異議なし)

鈴木委員長 それでは、議事の2 金沢区における区民文化センター整備の基本的な方向性について、に移ります。事務局から資料の説明をお願いします。

事務局 **資料2**について説明

鈴木委員長 確認ですが、前回の委員会までに、1.コンセプト、2.重視する視点は確定しています。今回、3.望ましい機能、4.事業(施設)運営の方向性については、前回委員会の意見交換を基に修正しています。本日は、3と4の部分について議論し、金沢区における区民文化センター整備の基本的な方向性を決めていきたいと思っています。

それでは、まず3.望ましい機能について議論したいと思います。

鈴木(達)委員 戻ってしまいますが、重視する視点のところで、我々の仲間から金沢区の海という視点が入っていないのではないかという指摘がありました。昔から海苔やシャコが捕れたなど、漁業というような点で発展があります。それに、交通の要衝という役割も果たしてきているということです。金沢区にとって海というのは、非常に重要な位置付けにあるのではないかということです。できれば、産業的な意味での位置付けというのを少し入れてもらった方がいいという意見がありました。少しキーワード的に入れていただければなという風に思いました。

鈴木委員長 具体的には視点1のところでしょうか。

鈴木(達)委員 はい。視点1の背景の説明がありますが、海には豊富な資源があることや交通としても大きな役割を果たすといった、産業も含めて発展している場所があるというようなことを少し入れていただければと思います。

鈴木委員長 事務局としてはいかがでしょうか。

区政推進課長 海をイメージさせるような視点というところで言いますと、視点1の中には当然、含んだ形での想定はしております。また、情報発信コーナーの中では、金沢区が持っている地域特性、歴史・文化の特性、観光情報等において、しっかりと発信していくという想定のもとに、資料の方に書かせていただいております。

鈴木(達)委員 もう少しここに具体的に落とし込んでいただければ、具体的に施設を考える時にも、少し頭に入れていただけるのかなと思います。当然入っているというご説明なのですが、文言として入れてもらえればいいなという希望があります。

鈴木委員長 それでは、3.望ましい機能の部分についてご意見をお願いします。

鈴木(達)委員 普段我々が区の施設を使わせていただくと、印刷機、コピー機など会議の準備をしたりする時に、作業できるようなエリアやそういう機器を使います。我々としては、例えばパソコンも備えてもらって、印刷機能もあつたりすると助かります。そのような、バックヤード的な設備ということにあまり触れられていないので、その部分はどのようなのでしょうか。

区政推進課長 本日は、機能的なところを議論いただきまして、全体としては各諸室や付属室等を踏まえたところでの議論の中で、整備の指標というものを今回の場ではご意見をまとめていただきたいと思いますと思っています。今後の詳細の設計等、使用条件等は中々決め切れるものではございませんので、議論としては全体の指標みたいのところまでをご議論いただきたいと思いますと思っています。

鈴木(達)委員 トータルの事務サポートみたいな、団体が使う時の事務、サポート的機能など。そういう感じで、少し折り込んでいただけるといいのかなと思えました。

鈴木委員長 具体には、この視点2・3・4の区民の文化・芸術活動の発表、交流といったところになるでしょうか。実際に作業できるように。会議室でもそういうことは可能かとは思いますが。

鈴木(達)委員 いろいろな機器を少し揃えてもらいたいというようなところをイメージしてもらえればと思えました。プロジェクターを貸していただくとか、何台用意するとかそういう議論はないのでしょうか、そういうことも配慮しているという意識をどこかに書き込んでいってもらうといいかなと。

鈴木委員長 その他、望ましい機能についていかがでしょうか。

浅葉委員 ここで言うべきことかわからないのですが、発信する手法として、施設やそこでの活動などのことについて、いかに若者を含め区民に知ってもらうかが大切。通行する人は当然見ればわかると思いますけど、通行しない人にとってどうやってわからせるか。情報発信として、やはり今流行のSNS、TikTok、YouTubeとか、そういう情報発信方法があると思いますが、そういう媒体で発信することは話題作りに欠かせないと思うんです。そこについて、やっぱりある程度機能としても書くべきなのかなとは感じました。そのような機能がここあって欲しいなと思えました。

鈴木委員長 多分これは事業(施設)運営の方向性のところで、そういうSNSとかを使って、情報を発信していくというところは入ってくるのかなと思います。その他いかがでしょうか。

三輪委員 前回ご指摘したところについて、皆さんで議論したところがだいぶ整理されて、重視する視点からのイメージみたいなものは取りやすくなったかなと総論としては思います。

今の話聞いていて、想定される機能の部分の上から5つ目の文化・芸術の情報発信や交流と、その下の文化・芸術の情報発信や交流というのを、少し表現を変えても良いのかなという風に思いました。例えば、視点2、3、4の方にぶら下がる想定される機能というのは、どちらかというすでに活動している方々向けのやり取りのことを指しているのかなと思いました。そうすると、先ほど浅葉さんが話したような対外的な話や「とまり木」というイメージで言うと、もっと広げていく相手が違う情報発信や交流だと思うので、ここの想定される機能の2つの文言は、少なくともイメージを変えておいた方がいいんじゃないかなと思いました。それで言うと、先ほど鈴木(達)さんがおっしゃっていた内部でやり取りするために必要な情報交流みたいなものに、情報コーナーの部分にワークステーションみたいなものを一言入れとくとかはどうでしょうか。つまり、上から5つ目の文化・芸術の情報発信や交流の想定されるスペースの中に、内部の皆さんの団体の活性化と仲間が決まっていくようなための情報コーナーとワークステーションみたいな書き方で。下の方はどちらかという、自分たちの活動がもう少し広く発信していくための情報発信や交流とそのためのサポートの場づくりという意味で。今は、ここの部分の文章的には被っているようなので、もう少し明確にその違いを出せば、整理できるのかなという風に思います。

あともう一つ、望ましい機能の一番上の金沢区らしい文化・芸術、歴史・文化などというところは、こうこういう書き方なのでしょうか。文化が2回出てきていて、セットになっているのは分かりますけれども、少ししつこいという印象を持ったので、少し整理されても良いかなと思いました。

鈴木委員長 確かに言葉として重複している部分ありますし、書き分けて問題なく狙いははっきりする部分もあると思うので、整理する必要があるかもしれないですね。

北原委員 先ほど鈴木(達)委員がおっしゃったこと言葉をまとめると、おそらく「活動支援」みたいな言葉が入ると良いのかなと思いました。今、三輪先生のお話にもありましたけど、想定される機能で文化・芸術活動の情報発信や交流が視点2、3、4のところ1つと、視点5のところ1つあって、それが対外的なものなのか、どちらかという区内の団体の活動支援に関わる情報発信なのかというところが、明確に置き換わってきやすくなるだろうなという風に感じました。想定されるスペースとして、文化・芸術活動の情報発信や活動支援みたいなものが一言入るだけで、先ほどおっしゃられたプロジェクターやコピー機などの機器、そういう機能として包含できるような言葉になってくるかなと思いましたが、意見としてお伝えできればと思います。

鈴木委員長 確かに、活動支援というような部分については、この文言上は出てこないですね。前後の文章見てみると、そういったもの想定されるかもしれないですけど、この辺りはきちんと前面に出しても良いのかなと思います。

それでは、4. 事業(施設)運営の方向性についてはいかがでしょうか。先ほどすでに SNS での情報発信というような話も出ましたが、その他はいかがでしょうか。

鈴木(達)委員 せっかく先生たちもお見えなので、教えていただきたいことです。例えば、金沢公会堂、地区センターとも連携したハブ機能というようなキーワードと、色々なところとマッチングしましょうというような表現があるのですが、具体的に先進的な事例や資格などはあるのでしょうか。我々としては、いつも普段の活動をしていて、そういう点にギャップを感じているんですね。地区センターと公会堂などがうまく連携できれば、面白いことできそうだなと思ったりする時もあります。しかし現状では、それぞれの指定管理者がいらっちゃって、そこがいろんなルールを持っておられて、なかなか横の連携というのが、もう一つ無いなっていうような感じを受ける時もあります。きっと、裏では努力しておられるんだと思うんですけども、そういうことで、事例とかあるいは、資格やコーディネーターといった例があれば、教えてもらいたいなと思いました。

鈴木委員長 先に私の方から少しコメントさせていただきます。例えば、大きな劇場とセットで小さなスペースを複数抱えているような大きな文化センターのような場合には、大きな舞台の練習が小さな部屋でもできるようになっているという風に連携して計画を作っていきます。だから、大きい晴れの舞台の練習を、個々の部屋でできるようにしておくということです。そうすると、例えば公会堂を借り切って地元の方の団体の方が何回も練習するというのはあり得ないですから、それと同じような練習がもし区民文化センターでできたらということが連携するということだと思います。公会堂で晴れの舞台をやるための練習を区民文化センターでやりましょうということもできるとは思います。当然、指定管理者になるので、選んだ時に一緒になるかどうかってわからないんですけども、まず、ハード的にはそういうところはきちんと抑えていく必要があるのかなと思います。

あとは、例えばそういう施設間の連携でいうと文化施設ではないですが、南区ではコミュニティハウス、地区センター、それからケアプラザといったところが、お互いにイベントについて情報交換するような組織を作ったりしています。おそらく市内各区で色々そのような取り組みをやっているところもあると思います。ところが、それは市民活動支援のコーディネーターさんが各区に配置され、その人たちの個人的な繋がりで行っているよ

うな部分も若干あります。そういった施設間の連携というのは、施設ができたなら、それを機に金沢区内の施設で連携する仕組みを作りましょうというようなことを、ここで提案していくこともあると思います。

それから、それ以外のところについては赤江さんが前回少しご説明いただきましたけど、施設間の連携の例ということで、もう一度少しコメントいただけますか。

赤江委員 この前少しお話しさせていただいたのが、例えば私どもは神奈川県民ホールという非常に大きな2500席の大きな劇場を持っていて、私たちの自らのオペラの制作というのもしています。そこではもちろん、神奈川フィルの様なオーケストラをお願いして、大きな舞台を作っています。例えば、他の区民文化センターではタイアップをして、区民文化センターでは大きなオペラは作れないけれども、例えば、蝶々夫人をそちらでやるのであれば、子供向け蝶々夫人を企画して、地元の子供たちや区の出身のアーティストを起用して、一つ舞台を作ります。それでお互い連携をして、例えばチケットを安くしてお互い売るとか、チラシと一緒に載せて関連企画ってということで、区民文化センターの方とも一緒にやるんです。それで、安く見に来て、もっと興味があれば県民ホールに行ってねとかで、あとお子さんいらっしゃる場合は、まず区民文化センターに行くってとか、そういう連携をしています。そういったコーディネートの専門資格というのはないですけども、そういった経験を積み重ねたスタッフがお互い連携し合って、お互い行き来をするというようなことをしています。あとは、県内の様々な地域で巡回公演みたいなものをやります。県西地域の方では、そこでミニオペラみたいな企画を持っています。そのピアノ伴奏で曲をヘンゼルグレーテルにして地域の子供たちに知ってもらおうとした時、地域の子どもたちで合唱をしている拠点になっている劇場と連携をしながら、いつもやっている児童合唱団があるよという話から詰めていって、そちらに私もお挨拶に行き、児童合唱のお子さんたちとせっかくなので一緒にやりましょうとしています。それで、こちらから先生を派遣して、一緒に何度かワークショップをやって、本番と一緒に出てもらう。そうすると、地域の親戚の方や友達が皆さん見に来てくださるというような、そういった連携というのも一つの例かなという風に思っています。

鈴木(達)委員 そういう気のまわる人が個人的にうまくやっているイメージもあるんですけど、そういうものを、この区民文化センターの中で機能を持とうということになると、そういうことを意識した人を置いておくというようなことが、この議論の中では前提になると思うんですけどね。

鈴木委員長 専門人材の配置というところで、コーディネーターの人材を配置すると書いてあるので、答申に盛り込まれていると施設管理者を募集する時にもコーディネーターを配置するという提案を、指定管理者の応募団体はしてく

ると。そういう人材を置いてもらうためには、ここに文章を盛り込んでいた方がいいと思います。

鈴木(達)委員 僕自身が個人的に感じることは、指定管理者がそういうことを言われても、隣の地区センターにはまた別の指定管理者がいて、そんなの知らないよみたいな感じになったりするのではないかと懸念します。そういう意味で言うと、もう一つお立場が上の公務員の方、市職員の方とか、そういう方が担うような役割じゃないのかなと思うんですけど、その辺はどうなんでしょうか。

赤江委員 実体験としてお話をさせていただきます。今おっしゃったところは、館長クラスとか偉い方同士や理事長同士でお話しするよりも、現場の職員同士が話した方が早いです。私自身も、横浜・臨海地域で劇場のご近所付き合いみたいなものを事業担当者で声を掛け合っています。近隣の文化施設に声をかけて、みんなで話ししましょうと言って集まりを持ったりなど、事業担当者でやっているんです。そこが非常に有効で、現場で仕事をしている人たちの問題点ですとか、もっと協力し合おうとか、広報のお金がないんだから、みんなで1つのチラシを作ったこともありました。非常に自然発生的に、現場の職員の方がうまくいくことが多いんです。そこから上をそれぞれ説得していく。割と気軽に、それが実行できるという経験は何度か持っています。

あともう一つは、私が今事務局長をやっている神奈川県公立文化施設協議会というのがあります。区民文化センターも全部ではないですけど、入っていただいているところも多いです。そこで、定期的なコミュニケーションを取ったりですとか、会合したりですとか、みんなで集まって研修をしたりしています。それから施設見学会や事業見学会というのを年間において様々ご用意しているんですね。それで、何かちょっと困ったことがあると普段から相談したりなど、ネットワーク作りというのを一生懸命やっているところです。風通しは良くなってきているところです。

ご質問の件ですが、上の方よりもむしろ、現場の方同士の関係にとっていい環境を作っていかなくはいけないんじゃないかなと思います。

鈴木(達)委員 浅葉さんとか阿部さんは、色々ご経験されていて感じるどころあるんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

阿部委員 実際、私が金沢区で色々活動とか取材を通して感じたことですが、金沢区には地区センター、コミュニティハウス、あと公会堂と長浜ホールがあるんですが、やはりそれぞれが独立してしまっているといつも思います。各センターとか公会堂、ホールが独自に企画を立てて自分たちでコンサートをやったり色んなことをやったりしていると思う中で、金沢区民活動センターでは、色んな所とコミュニケーションを取って共同企画を立てています。区民活動センターとコミュニティセンターでは、毎年1年に1回で

すけども、共同企画で、『街の先生』ですとか所属団体がいろんな事を企画してやっています。ただ、せっかく良い企画なんですけど、協力してくれるコミュニティセンターが少なくて、毎年抽選になっています。それは、応募がたくさんあるにもかかわらず、できる団体は10団体しかなくて、一生懸命活動したいなと思っていても、協力してくれるところが少ない。地区センター、コミュニティセンター、公会堂、そして今度できるであろう区民文化センターで、やはりコーディネートをする人や団体が必要だと思います。区民活動センターの皆さんがすごくいい位置にいらっしゃるんじゃないかなと思っていますので、その中でコーディネートをする方も区民の中から選ばれて、一緒にやりましょうという手を携える方がいらっしゃる方がいいなと思っています。本当に金沢区は、活動する皆さんとか団体が非常に多いにも関わらず、なかなかそのチャンスが回ってこないんですね。そういった意味でコーディネートする人、団体が少ないような現実を私は感じております。

浅葉委員 僕は具体的に金沢文庫芸術祭の例なんですけど、やっぱり個々に、別々でお願いしてやりました。ただ、今ちょうど別件で栄区の区民文化センターリリースの企画に関わっているんですけど、その企画で昨日長浜ホールでやって、あれ、繋がってんじゃないんってということがわかって意外だったんですよ。そう考えると、知らないけど実は繋がっているってあるんだなと、昨日まさに感じたんですね。そこを知る場所があると嬉しいなとは感じました。でも、基本的には1か所1か所にちゃんと届け出を出してやって大変でした。

鈴木委員長 少し補足をすると、区民活動支援センターには、コーディネーターの方がいらっしゃるんですね。その任期は確か以前は5年までで、5年経ったら変わらなきゃいけないというのがあったんですけど、それだとやっぱりノウハウ(know how)というよりノウフー(know who)と言うか、誰がこんなことをやっているというのを知ってるということが大事なので、それで5年の任期が伸びたという風に記憶しています。

別の話になってしまいますけど、今、横浜市が立てている中期計画の中でも、市民協働の仕組みの中で各区ごとにそういうコーディネートする仕組みを作っていきたいというのが入っています。ここにコーディネーターの方が配置されて、区民活動支援センターや他の公共施設の方と、定期的にちゃんと顔をあわす機会を持つとか、意見交換の機会を持つというような仕組みがちゃんと出来上がってくると、状況は改善されていく部分もあるんじゃないかなと思います。これは、区民文化センターだけでできることではないと思うので、区の方のコーディネートが必須だと思います。

その他はいかがでしょうか。事業(施設)運営の方向性については、先ほど

浅葉さんの方から SNS などの情報発信の話が出てきています。また、ここにも活動支援という言葉も入れてもいいというような気もいたします。それから鈴木(達)委員、阿部委員からご指摘いただいたコーディネート的重要性は、コーディネート人材の配置というところでしっかりと入れていくべきかなと思います。その他いかがでしょうか。

三 輪 委 員 1 番上の金沢区の特性を踏まえた文化・芸術活動拠点というのが、他に比べて、何を指しているかわからないタイトルだと思います。事業運営の方向性なので、金沢区の特性を踏まえたというのは視点 1 から入ってくるので、歴史と文化、魅力発信みたいなものではないか。1 つ目のポツはわかるんですが、2 つ目のポツはもしかしたら下じゃないのかなと思って聞いていたんです。何でかという、金沢公会堂と金沢地区センターが前面に来ていて、文化としてこのエリアだけの話になっていて、金沢区の特性っていうと、もっと別の地区センターあるいは長浜ホールもそうなんですけど、そういう周辺全体、金沢区全体の関連すべき施設との連携みたいなどころだったら、ここに入るのかなと思ったりしました。むしろ、センター機能としての役割の発揮っていうところで、金沢公会堂と金沢地区センターというのは、どちらかという文化・芸術の発表の場とかをする専門的な場だと思うので、そういう意味でのセンター機能っていう方がじっくり来るのかなと思いました。

あとは例えば、ケアプラザでは調理室があって、そこで歌声喫茶をやったりしている。そういう人たちが、ある時発表したいとなった時に、ここでずっと練習してんだけど、やっぱり晴れの場合はここだよ、と。その流れは、地域ケアプラザのコーディネーターの人にも見てほしい案件かなと思うと、もしかして運営じゃないかなと思ったんですね。その 1 つ目の視点 1 の金沢区らしさ魅力発信の方になったら、そういう別の分野の関係の機能、その文化交流に付随する別の分野の場の活用だったりとか、そことの連携すみ分けみたいなものを書くのだったら上の箱、少し近隣までマネージメント的な発想するような意味での連携企画だったら、2 つ目のセンター機能としての役割みたいところに落ち着いた方が良いのではないかな。大事な話なので、両方あってもいいかなと思いました。

鈴木(達)委員 多様な立場の人が興味を持ち、参加しやすくするって議論がありますが、他言語な多文化な人たちっていう言い方なのかわからないですけど、そういう人たちもちゃんと迎えるような施設にしましょうというのはどのようなことを求められるのでしょうか。直観的に言えば、多言語を理解するような人を置いておくとか、そういうようなことも前提にあるのかなとも思ったんですけど、その辺までこう考えるようなことをこの区民文化センタ

一の中で議論できるのかなど。そういうギャップを色々感じる場面は多いのであれば、とっていいなと思うんですが、その辺のところも他の事例とか、県内の施設でそういう人たちを配置しているとか、こんな工夫をしているというような事例があれば、教えてもらえればなと思います。

赤江委員 私たちも横浜市にある施設ですので、外国人の方に非常に多く来ていただいています。今多いのは、西洋人というよりもアジア系の方が非常に多いです。先ほどお話した研修の中で、優しい日本語講座という研修をやりました。今まで県民ホールでは、4カ国語ぐらい話せる人を配置したり、プログラムには英語を載せたりなど、文化庁の指導があるのでそういうこととしていました。優しい日本語講座を受けて分かったことは、文化施設に来られる外国人の方は日本語を勉強していらっしゃる方がほとんどで、しかも英語を喋れない方も多いということでした。外国人の方にアンケートを取ったら、日本語で会話と読み物を見たいというのが1番多くて7割くらいです。そうすると何が大事かという、優しい日本語で書かれている、優しい日本語でお話をするということです。それはイコール高齢者の方ですとか、障害者の方にも通じることなんですね。今はどちらかという、数カ国語で言葉を話せるようにするとか、読み物を用意するという方ではなくて、優しい日本語にシフトしてきたというのが現実的にあります。

鈴木委員長 今ご指摘の多様な立場の方が興味を持ち、参加しやすくというセンター機能の役割の発揮の部分、まさにその部分だと思います。

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

一 同 (特になし)

それでは、概ねこちら意見が揃ったように思います。

4. 事業(施設)運営の方向性については、いくつか入れるべき項目がありました。先ほどの望ましい機能についてのところもありましたけども、活動支援という言葉、それから SNS などの情報発信の件、それからコーディネート機能の件、そういった点についてしっかりと組み込むこと。それから多様な人々の参加、いわゆるソーシャルインクルージョンの観点をしっかりと運営の方向性に入れていくと。一方で、すみ分けと連携の部分については、視点1・2のところは若干重複するあるいはどちらにあるべきかというのは議論があるので、ここについてはそういった方向性で修正するというところでよろしいでしょうか。

一 同 (異議なし)

鈴木委員長 ありがとうございます。ご了承いただきましたので、そういった方向性で決定とさせていただきたいと思います。

次に、議事3施設機能の構成についてに移りたいと思います。説明資料3の説明をお願いします。

事務局 **資料3**について説明

鈴木委員長 それでは施設機能の構成についてご意見いただきたいと思います。

北原委員 施設全体における配慮事項のところとしては、やはりまだまだウィズコロナの時代でもありますので、換気とか消毒に関する配慮事項というのは記載が必要ではないかと思います。来館者の安心安全というところも踏まえても、ある程度換気であったりとか、利用後の消毒とかいうものに関してどれだけ施設自体が備えていられるかというのは、利用時の重要なポイントになっていくのかなというように感じます。

コーディネーターの話は先ほども何度も出ておりますけれども、おそらく全てのものを全部内部で賄うとしてしまうと、かなり無理があるだろうと思います。多言語や福祉的なところについても、どの専門家をこの文化施設にどれだけ置くのかというところで、おそらく文化的な部分での専門家がしっかりいるということが大事だと思います。そこはある程度内部で、そうしたコーディネーター的人材もジェネラリストを求めようとする、すごく凡庸になってしまうので、逆に文化・芸術部分でのスペシャリストの配置の部分と、あと内部で抱えるよりも、連携・協働で実現していくというところの意思が示されると良いのではないかなと感じました。

先ほどの活動支援の部分では、私は非常に重要な視点だなと考えました。団体がコンサートをやるとか発表会をやるということで発信をしていこうと思った時に、チラシを作るとか、印刷をするということが分散するよりも、一所の場所のできる、ワンストップでできるって非常に重要なことかなと思います。会議室なのか情報コーナーなのかわからないんですけども、印刷ができるという機能があるととても便利かなと思いました。おそらくその他のところに関わるところかなと思いますけれども、エントランスや屋外スペースのグランドレベルの設計というところが、区民にとっての入りやすさとか関わり方というところで、非常に重要になると思います。作品などがちょっと見えるとか、オープンな感じのことが書かれているかなと思いました。

エントランススペースでは、植栽がすごく大事なかなと思っています。植栽やお花などは、ある種それもアートとか芸術の分野にも関わることでですので、その植栽デザインのことは、一言書いてあると良いかなと感じました。あと、屋上スペースですが、ここをどう活用するかによって魅力度がすごく変わってくると思います。特に今コロナがいつまで続くか、この施設がオープンするまでに続くかどうかわからないんですけども、屋外でのミーティングというものも非常に今ニーズがありますので、打ち合わせスペースなどに限度があるような場合に、屋上にオーニングなどがあって、テーブルと椅子があると利用がしやすくなります。無駄な空間というのがなくなって、カフェ的にテラスのように使えるんじゃないかなと感じました。

赤江委員 具体的に実際私のホールで困っているようなことを、一応お伝えまでさせておいていただいてもよろしいでしょうか。まず3点ほどあります。Wi-Fi なんですけれども、ここでWi-Fi の表示が書かれているのが、音楽多目的室、会議室、情報コーナーにあるんですけれども、今私どものホールでは非常に困っているのがロビーでのWi-Fi 化なんです。なぜかという、ロビーには例えばチケット有料の場合にモグリがあったりですとか、何かしらの販売をする時に、全部チケットレス、キャッシュレス決済になってきていますので、Wi-Fi が無いと困ることが多いです。それとWi-Fi に関して言いますと、防音室では今、特にコロナの時代から配信というのが非常に多くなってきています。この防音室を利用しての配信という利用も非常に多いのではないかなと思っています。そうすると、非常にWi-Fi というのは、重要な備品の一つになってくると思います。そして、ギャラリーの方なんですけれども、今非常にインスタレーションというジャンル多くなってきています。そのインスタレーションの作品でも、やっぱりWi-Fi を使うものですか、コラボレーションするものも多いです。何が言いたいかというと、活動の場全てにおいて、全館Wi-Fi にしておいていただいた方がよろしいのではないかなと思いました。

そして、2点目は動線です。搬入口やバックヤードの動線を確保など、非常に動線のこと書かれていてこれはもう本当に素晴らしいなと思いました。1つ加えるとすると、その動線の中で必ず段差がないことが大切です。段差が生じるところには必ずエレベーターをつけていただかないと、1段でも2段でも致命的なことになります。車椅子がそこを通れない、持ち上げないといけない。それから、台車を持ち上げることができない、重量がすごく大きいものなので1回全部積み替えるようなことが生じます。フラットというところは、非常に重要視していただければなと思いました。

最後は、トイレのところですか。子育て世代が使いやすいような設備を男女トイレそれぞれに設けるとあるんですけれども、今は割と『みんなのトイレ』という表現が多いんです。それは子育て世代じゃなくても、オストメイトを使ってらっしゃる方ですか、それから高齢者の方でオムツ替えが必要な方という方もいらっしゃいます。みんなのトイレにすると、介護者の方も一緒に入れるようになります。あと、授乳室というのも、どこかに作っていただいた方がよろしいかなと思います。

鈴木委員長 多分、Wi-Fi は全館にあった方がいいと思います。大学でもパソコン用のスペースみたいなものを持たなくなっているんです。それぞれノートパソコンを持ってくるとか、あるいは貸し出されたもので様々な場所で作業するという風になってきています。ある意味、作業スペースは別に会議室で

なくても、エントランスの休憩スペースが打ち合わせのスペースになるということでもあります。そういう意味では、Wi-Fiは大事なのかなという風に思います。その他いかがでしょうか。

阿部委員 音楽多目的室では、小規模な舞台を設けられることが望ましいとなっていて、床面は平土間形式ということで、イメージとしては真四角なスペースでしょうか。それとも、ちょっとした段差のあるステージが設けられるのでしょうか。それが、ここからではわかりません。金沢区は大変音楽活動が盛んなところが多くて、そうなるとうっかり舞台があって、客席があるとなると少し段差が欲しいんです。私個人の意見になってしまうかもしれませんが、ステージがやっぱり欲しいなというのがあります。能見台の地区センターの体育館は、使わない時は壁にくっついていて、使いたい時だけそのステージが自動で降ろされるというステージがあり、これはいいなと思ったんですね。なので、来場者の方が見やすい音楽多目的室するには、客席とステージの高低差があった方が見やすいといつも思います。金沢公会堂の多目的室も平らなスペースになっていて、そこで何か発表するとなると、あまり見えないとよく言われてしまいます。そういうことも少し考えていただきたいなというのがあります。

あともう一つは、先ほど授乳室の話が出ましたが、部屋を設けるのではなくて、移動ができる授乳室というのがあります。京急富岡駅に箱形の授乳室が設置されていて、それは鍵がかけられるようになっています。授乳をしたりオムツ替えをしたりする部屋は、鍵がかけられるのいいって言われました。お母さんたちは授乳をする時に、鍵がかけられかけられるっていうのは、すごく心の安心に繋がったっていうのを聞きました。

あともう一つは、せっかくできる金沢区の区民文化センターなので、プロジェクションマッピングが建物全体に何かできたら面白いかなと思いました。プロジェクションマッピングで金沢区の魅力が発信できるような、話題性のある区民文化センターができるのも非常に面白いなと個人的に思いましたので、そういうのもご検討いただければと思います。夜になるとすごいのが光るといような、映えるような区民文化センターも楽しいんじゃないかなと思います。そういうことを学生の皆さんに協力してもらうのもいいかなと思いました。

鈴木委員長 その他いかがでしょうか。

鈴木(達)委員 施設の話で気になっているのが、カフェという言葉です。1階にカフェというような話があったんですけど、1階のエリアは駐車場などが入ると場所が取れないんじゃないかという気がするんですよね。その一方でカフェがあると、ここにスタバでも呼んでくるのかみたいなイメージがあって。

少なくとも、皆さんが座ってくつろいでお茶を飲んで、それにお茶を提供するということを考えると、それなりのエリアがそう必要そうだなと思いました。あと、もしこのカフェというのが普通に営業しているようなものであったら、収支の問題とか、場所の問題とかはどうなのだろうか。そういう意味で本当にここにカフェって書いてあると、この設計する人はどういう連想をするのでしょうか。例えば、自動販売機があつてちょっと立ち寄りできるぐらいのエリアということでもあるとすると、カフェと書いてしまうのはイメージが違うんじゃないかなと思いました。

鈴木委員長 これは私が強く「カフェ機能」というのを入れるべきだとはなさせていたかったので、説明させていただきます。まず、大体こういう地区センターやいろいろな公共施設というのは、自動販売機がポツンと置いてあつて、そこで買って好きな人は飲んでくださいねというようなことが多いです。けれども、やっぱり交流する場にするためには、きちっと営業が仕切られたようなものでなくとも、お茶が飲めるような場所、それから例えば1人でそういうところに行こうと思った時にちょっとお茶を飲めるとか、そういう場があつた方がいいのではないかということです。ただし今回の場合、スペース的にもある程度の制限がありますから、いわゆる1階に商業的なカフェを入れるという意味ではなく、むしろ交流の場に何かそういうようなお茶を飲んで休める機能があるべきではないかということです。前回、三輪先生がおっしゃられた「とまり木機能」に近いものとして、こういう機能を入れるべきではないかということで話しさせていただきました。

鈴木(達)委員 何かテーブルと椅子があるぐらいな感じということですかね。

鈴木委員長 そうですね。やはり自動販売機でもいいんですけども、なかなかそこではコミュニケーションが生まれにくいようなところもあると思うんですね。ただ、それは全体としてこのスペース配分の中でどう考えるかという話になってきますが、ここではカフェ機能というような形で表現しています。

三輪委員 このカフェ機能というのは、スターバックスなどを入れようという発想では全くない、ということがまず前提にあります。「招き機能」のような話でいうと、少しお茶などでコミュニケーションを促した中で話を出すという、そういう機能がとまり木機能という風に表現しています。自動販売機だと結局機械なので、ただ飲むだけのものになってしまいます。そうではなくて、例えばお茶を受け取りることによって、今度こういうのありますよ、こういう使い方もできますよ、ここってこんなことできるのかな、など、そういう会話が生まれます。それはもしかしたら、運営に絡んでくると思うんですけど、最近だとネスカフェみたいなもので提供している場もあります。例えば、地域子育て支援拠点等でもそういうカフェ機能みたいなものが置いてあるんですね。例えば、100円を渡して、自分でカプセ

ルをとってお茶が出てくる、それを渡すというだけでも十分なのです。機械でなくひと手間かける作業とちょっと留まる場、それが相談をするきっかけになったりする。その役割として飲み物を共有し合うみたいなものがあると思うので、そういう意味では事務所がそれを部分的に兼ねていて、それをきっかけに少し腰かけて、情報を見ながらあれこれ話をするという場ではないかと認識しています。

鈴木(達)委員 スタッフお茶出ししてどうぞと渡したら、会話が出てくることを期待しているとか、そういう感じなんですか。

三輪委員 まあイメージは近いですね。今まででしたら、そういう役割について行政もあまり補助金出さなかったりしていたんですけど、子育て支援だとそういう入口の部分がないとなかなかきっかけがない、あるいはケアの場面ではそれを推奨するような動きになってきている部分もあります。なので、ここの中でも相手の要望を引き出したり、人数を引き出したりなど、コミュニケーションのきっかけにするのに、飲み物を共有するというような機能はあった方がいいんじゃないかということです。ただ、あくまでも構想なので、例えばスターバックスを入れてくださいというような書き方は一切されないのは、そういうニュアンスだと思います。だから機能というのは、確かに入れた方がいいかもしれない。「カフェ」ではなくて、「カフェ機能」と言えるのは大事な発想だと思います。

鈴木(達)委員 それで言うと、ソフト的にそういうことをやれることも考える方がいいのかなと。人が来たら必ずお茶どうぞと出す人も抱えておくというような。

鈴木委員長 いや、有料という前提です。来た人皆にサービスしたら、施設は成り立たないと思うので。

海外では多くの文化施設には必ずカフェがあって、そこは交流スペースになっているんですね。そこで打ち合わせをしたり、できるところが多いです。日本だと自動販売機を置くだけということが多くいんですけども、最近はいろんな施設の中で、コミュニケーション機能を重視してカフェ的なものを置いているところも多くあります。

鈴木(達)委員 相談に来られたとき担当の方が座られて、話し始めた時にお茶有料ですけどいりますかみたい形で、お茶を置くという感じなんですかね。

鈴木委員長 そういう趣旨での提案ではないですね。それは誤解されると、ちょっと困るところがあります。金沢八景駅前見ていただいてもわかると思うんですけど、なかなか一息ついて休んだり、人とお話ができたりする場所というのは、必ずしも多くない状況ですよ。ですので、文化施設に1人でふらっと来ても、そこで居場所を見つけられるということも結構大事ではないかなと思います。目的がある人はある人で必ずこの施設は使われると思うんですけども、そうではない人たちに使っていただくということを考えた場合に、少しそういうコミュニケーションを作る場として、カフェ的

な機能があったりした方がいいのではないかなと思います。それは、お茶を出してサービスするという趣旨のものではないです。

鈴木(達)委員 椅子と机があって、自動販売機があったらいいんじゃないかという発想ではないんですね。

鈴木委員長 はい、それでは違うんですね。

赤江委員 ちょっと違う事例の話しますと、無料でお茶をしてどうぞみたいな事例は車ディーラーのショールームに行くと、それは無料だと思います。車のショールームもお洒落になっていまして、昔のイメージとはちょっと違う感じの商談のイメージになっています。お茶を入れて営業の人たちが来て、そこで商談して車買ってもらうみたいに、すごく気軽な感じでお話ができる。それと、いつも遊びに来てくださって良くおっしゃるんですね。きっと少しそこには似ているところがあると思います。

それから、鈴木先生もおっしゃっていた海外の例ですが、私自身がイギリスの劇場で研修をさせていただいたことがあって、日本でもあまりないんですけど、イギリスの劇場には1番良い場所にカフェがあるんです。

鈴木(達)委員 それは、例えばスタバみたいなものを連想して良いですか。

赤江委員 そうです。そういうものがあって、狭いところはあのカウンターだけあるというところもあります。お店みたいに構えてないんですけど、カウンターだけでコーヒーを提供していて、その辺の椅子に座ってみんな飲んでいるというような感じです。なぜかという、やっぱり劇場にみんな来てほしいという気持ちがあるからです。

私が切実に毎日感じているのは、神奈川県民ホールにはそういうところがないんです。縦割りになっているところがあって、お店に関して言うと、県の方が管理していて私たちの方では管理ができないので、どんなお店が入るかわからない。そうなってくると自動販売機になってしまっています。本当にそれで何が起っているかという、催しが無い時は閑散として用事が無いから誰も来ないんです。自動販売機は外にもあるので、県民ホールの中に来なくても買えますよね。そうすると、やっぱり人が集まらない。新しい例で言うと、神奈川県立図書館が最近リニューアルして、そこに猿田彦珈琲が入ったんです。そうすると、やっぱりそこでコーヒーを飲みたい人たちが来るんです。図書館には用がないんですけども、そこにみんな来る。そうすると、ちょっと寄ってみようみたいな感じになるので、そこで交流が生まれたりします。求めている機能としては、自動販売機だと生まれないと思うんです。コーヒー出すのにもコミュニケーションがあって、そこで人との交流が生まれるというような意味合いだと思います。

鈴木(達)委員 イギリスの例でおっしゃったのは、スタバ的なものがあって有償で提供するということでしょうか。

赤江委員 それはですね、スタバ的なものというよりむしろ自分たちの劇場で運営していることが多いんです。劇場で、どこかにお願いしていると思いますけれども、私たちのような指定管理者で縦割りというわけではなくて、劇場に人をお迎えするという視点から、そこにカフェを設けています。それで、一角には必ずグッズショップがあつたりします。そういった目的で、1番いい場所でお客さんをお迎えする玄関などにカフェとグッズショップがあるということです。

劇場で始まるまでに、開演が夜7時だけれども5時ぐらいから来て、ここでゆっくり食事したり、軽食食べたり、お茶を飲んだり、人と待ち合わせしたりというんな人が来ています。

鈴木(達)委員 やっぱり、それなりのカフェがいるような印象を、どうしても今のお話聞いていても受けるんですけど。

赤江委員 もちろん、そういったものがあるのも良いですけども、ここにそういった機能を持たせれば良いのかなと思います。話がしやすい雰囲気作りができると良いのかなと思います。

三輪委員 私は、24ページの書き方を整理した方がよいと思っています。重視すべき視点から望ましい機能、運営方向性にいった時にそれを具現化する施設計画に関して、もう少し頭出しをしっかりとすることが結構肝なんじゃないかなと思っています。全部箇条書きになっているので、わかりわかりにくいっていうか、読み飛ばしてしまうという印象を受けました。

まず、1つ目と2つ目の項目はすでに言われているので、ここで言う話ではないと私は思っています。全体の最初のところで言われているので、あんまりそこでくどくどと言わなくていいかなと思います。その後の話は、まず諸室の規模感と配置計画を考えるべきという話です。もう1つは、みんなに優しい設えとサインの工夫みたいなことです。人と車との動線への配慮みたいなこともあるだろうし、最後の方はまさに金沢区のこの近隣の公共施設としての役割という話だと思います。金沢らしさとか、近隣の関係を見たランドデザインというのが大事になってきていて、その中に、今のカフェ機能みたいなものがなぜ必要なのかとか、そういう議論をちゃんと整理してから話していった方がよいかなと思っています。単館整備であるということは、むしろデメリットじゃないかと思うんですけど、区民文化センターを知っている人しかここに来ないわけですよ。そうすると、ここにわざわざ来る人は目的のある人しか来ない。公会堂などと連携するためには、ここも全体のランドデザインの中で素通りしないでキャッチアップできるような機能が、単館整備だからこそ必要だっていうことではないか思います。これは、単館整備のメリットではなくて、逆にデメリットだと思います。複合だったら何かにくっついて、商業施設に来たつ

いでにというようなことがあるけれど、ここは区民文化センターとして単独で存在することになるので、それに目的にした人しか来ないでしょう。その弱さを、まさに今話してたような、雰囲気作りと仕掛けという1つとして、例えばドリンクだったり、情報発信だったり、そういうものを前面に出した機能を付随した運営、設置のようなものは、まさに金沢区のこのエリアのランドデザインとして、ここをもう少し昇華させていかなければならないと思います。そういうことを最初にしてから、後ろ側に各諸室の考え方の記載とすべきじゃないかなと思っています。だから、もう一度いうと、事業運営の方向性の後に各施設機能構成についてのところには、その計画の考え方のベースを書く。これは何と言っても基本構想なので、今までの話を踏まえて、5つぐらいの肝があってから、それに付随してさらに詳細が各諸室の考え方に持つてく方がガイドラインとしては、わかりやすくなるんじゃないのかなと思います。

鈴木委員長 今までに書かれているところは、あえてここでもう一度書く必要はないのかという点、それと大きなランドデザインにどう対応していくのかということを書き加える必要があって、もう少し小見出しなどで整理してわかりやすくできるのではと思います。

鈴木委員長 その他ご意見があればお願いします、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

かなりたくさんご指摘をいただきました。配慮事項の点については、北原委員からウィズコロナの対応等、ランドレベル、それから植栽、屋上スペースなどが打ち合わせスペースで利用できるのではないかなというようなお話をいただきました。また、三輪委員らは、前段で述べられている部分は省略して、大きな方向性が分かりやすいようなものに整理すべきではないかというご意見をいただきました。各諸室の考え方については、特に設備面で言いますとWi-Fiが重要であるという点、それから施設の運営上やバリアフリーの観点からも段差を作らないような計画をすべきということ、それから重要な点でみんなのトイレという考え方や、授乳室あるいは授乳スペースは安心して利用できるようなことが大事ではないかというご指摘も赤江委員、阿部委員からいただきました。その他、カフェ機能については、イメージが少し分かりにくいという鈴木委員からのご指摘もいただいております。こういった点を踏まえて、施設機能・構成については、再度検討するというところでよろしいでしょうか。

一 同 (異議なし)

鈴木委員長 そうしますと、施設機能・構成については以上とさせていただきます。続いて、区民文化センターニュースについて事務局より説明をお願いします。

事務局 資料4について説明

	<p>鈴木委員長 何かご意見等ございますでしょうか。</p> <p>一 同 (意見無し)</p> <p>鈴木委員長 それでは、金沢区区民文化センターニュース第3号案については、案のとおり、決めてよろしいでしょうか。</p> <p>一 同 (異議なし)</p> <p>鈴木委員長 それでは、戻りまして最初の議題1の第2回委員会での議論内容の確認について、振り返り、議事録案の確認について、何か気づいた点はございましたでしょうか。</p> <p>一 同 (特に意見なし)</p> <p>鈴木委員長 それでは、こちらについて確定ということによろしいでしょうか。</p> <p>一 同 (異議なし)</p> <p>鈴木委員長 ありがとうございます。それでは本日の議事は全て終了いたしました。事務局におかれましては、本日の意見を取りまとめていただき、次回の委員会でお示しいただければと思います。</p> <p>区政推進課長 本日は活発なご議論を賜りまして、ありがとうございます。次回がいよいよこの検討委員会の最終回になります。本日いただいたご意見を基に資料を修正してその部分について確認いただき、最終的には答申というかたちで賜りたいと思います。それでは、本日長時間となりましたが、ご議論をいただきまして本当にありがとうございます。これにて本日の委員会は終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p> <p><b>閉会</b></p>
<p>資料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>資料1 第2回委員会での議論内容の確認</p> <p>資料2 基本的な方向性について</p> <p>資料3 施設機能・構成について</p> <p>資料4 金沢区 区民文化センターニュース 第3号(案)について</p> <p>別紙1 答申構成について</p> <p>2 特記事項</p> <p>・ 次回 日時：令和4年12月15日(木) 9時30分から</p> <p>場所：金沢区総合庁舎5階1号会議室</p>